

市民が集まり、憩い、楽しめる緑豊かな場所にいたしましょう



森の中の高知駅



高知を愛する皆様へ (30年8月号)

平成30年8月1日

いよいよ夏本番、今年はことのほか暑いのでお体にお気をつけくださいますよう。
さて、8月以降の活動予定をお知らせいたします。

.....

8月は時節がら共同活動をお休みします。ただ、水遣りは欠かせないのでボランティアの応援が助かります。よろしく願いいたします。

9月の共同活動は16日(日)9時~駅前と2時半~帯屋町、10月は14日の予定です。

.....

先月のトピックス

○7月15日(日)

南口電停脇「みんなの庭」で、草取りを行いました。6月に植えたマリーゴールド、ペンタスなど夏花は元気に育って駅前を彩っています。(右の写真)とにか暑くて、差し入れて頂いた水(Kさん毎度済みません)を有難く呑みながらの作業でした。(下左の写真)

帯屋町のギターライブとチラシ配りもいつもどおり。暑い中、足を停めて曲を聴いて下さる方も。(下右の写真)



..... (次ページに続く)

駅前緑化活動はご賛同の方々のご厚志で維持されております。引き続き皆様のお力添え(花苗持ち寄り、勤労奉仕、ご寄付など)をお願い申し上げます。

♥森の中の高知駅♥

幹事連絡先：〒780-0042 高知市洞ヶ島町1-11

中田昌志 携帯電話：090-8849-3651 E-mail：m.nakata@ak.wakwak.com

公文敏雄 携帯電話：090-7016-3743 E-mail：kumont2@yahoo.co.jp

ホームページ：<http://mori-kochi-ekijimdo.com/>

取引銀行：四国銀行よさこい咲都支店「森の中の高知駅 ナカタマサシ 代表中田昌志」名義 普通 0709695

「緑のまちづくり」を考える

(22) 建築を作るといふことの重さ

— 梶原町ゆかりの建築家 隈研吾さんの場所論

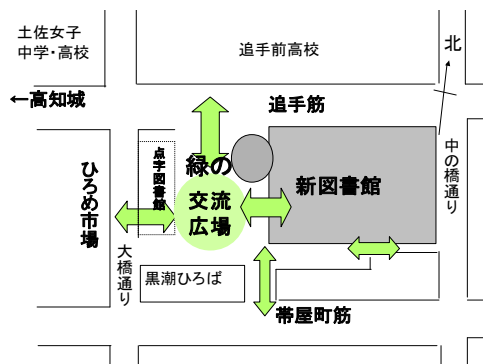
高知城からほど近い旧追手前小学校跡地に大きな新図書館が完成しました。敷地の西側に僅かに残った空地は図書館の庭だと思ったら、高知市は高層マンションを建築する方針だとか。カベで閉ざされたハコモノは周りとのつながり（コミュニティ）を切断する ということを承知の上かどうか…去年行った市民アンケートで多数を占めた「広場にしてほしい」という声を押しつけての拙速な進め方に、首をかしげる人も少なくないようです。



わが国には、建物を建てる前に地鎮祭を行い謹んで土地の神々のお許しを請う、古くからの慣わしがあります。では形どおり儀式をやれば許されるのか？ 建築家 隈研吾（くまけんご）さん（*）は、「一つの場所を占有し、環境を変えてしまうのが建築の宿命です。そういうある種の犯罪性を、建築は持っているわけです」（だから）「建築を作るといふことの重さに気付かない無神経さに対して、無性に腹が立つのです」と著書（「僕らの場所」2014年大和書房）の中で語っています。建築とは本来そういうものだというのです。

最近では、（建築ではなく）「庭の時代」が始まったと論じ、建築・都市設計関係者の間で静かに支持が広がっています。なぜ「庭（広場）」なのか。それは、庭や広場が持つ、（切断ではなく）「繋ぐ」特性に着目したからです。言い換えれば「社交・交流の場所」ということです。立派な庭園でなくても、下町の路地（通路・遊び場）、井戸端（水場）、小公園などをイメージしてよいでしょう。

問題の西敷地は、デザイン次第で、観光客を含め子供から大人まで幅広い人々が行き交い、木陰で触れあう、開かれたゾーンとなりうる恰好の場所かもしれません。（右略図）



.....
（*）隈研吾さんといえば、自然豊かな山間の町梶原の名所マルシェ・ユスハラ（市場+ホテル）、木橋ミュージアム、総合庁舎など一連の建物群の設計者、或いは県立林業大学の初代校長として、お馴染みではないでしょうか。「負ける建築」など独特の哲学と流儀とをもって地球を舞台に建築の第一線で活躍している同氏は、現在、東京オリンピック・パラリンピックに使用予定の新国立競技場を作るという重責を担っています。種々の制約の中で、明治神宮外苑の場所柄にふさわしい、「大地に寄り添う」、「小さな」、「市民に開かれた」、「生活と祝祭とをフラットにつなげる」、「これからの建築」を何とか実現したいと、新著（「場所原論Ⅱ」2018年4月市ヶ谷出版社）に思いを綴っておられました。



マルシェ・ユスハラ



木橋ミュージアム

（梶原町HPより）



新国立競技場のイメージ（「新国立競技場」HP = 日本スポーツ振興センター より）